ウエルハーネスだより

２０１号

上尾市向山 1－14－7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和５年２月25日発行

理事長からの言葉

新型コロナウイルス感染症の施設内感染では皆様にご心配をおかけしました。どうにか平常の生活に戻りました。気が付けば、世の中春になりつつあります。陽の光がすっかり春めいてきました。このまま、穏やかな世の中になるといいのですが。

以前、漫画家の蛭子能収さんが認知症になったお話をしました。蛭子さんの現状のインタビュー（奥さんとマネージャーも交えて）が『週刊朝日』2月3日号に載っていました。

「認知症になっても稼ぎたい」蛭子さんはそう断言する。稼ぎたい理由は、ギャンブルをしたいから。「競艇場でレースを見ているときは、ギャンブラーの表情に戻る。」と奥さん。蛭子：「ギャンブル面白いんですよ。お金が増えて戻ってくるって、すごく気持ちいいんで。予想するのも好き。難しいんですけど。」マネージャー：「マージャンもやってもらいたいけど、健康マージャンは賭けられないので面白くないみたい。」

「人柄がいいので、共演者に好かれるんです。遅刻もしません。いつも腕時計を5分早めています。『一緒にロケする人の名前を忘れちゃいけない、失礼だから』って、ぎりぎりまで確認する。このあたりは認知症になる前もなってからも変わらないですね。」とマネージャー。だから、タレントの有吉弘行さんが「認知症だからってテレビに出ちゃダメなのか。」と局に掛け合ってくれたり、司会の東野幸治さんが持ち味を引き出してくれたり、テレビ出演の依頼は続く。

マネージャー：「最近、絵のタッチが変わったんです。前衛的になってピカソみたい。」奥さん：「ゆくゆくは個展をしてみたいと絵を描きためています。」

マネージャー：「認知症の人が外出するときは、どうしてもサポートする人が必要です。そんな時、家族だけでなく、さまざまな人と助け合える社会になるといいなと思います。」

蛭子：「死ぬことは一番嫌い。何の儲けもない。社会は年々変わっていくんだから、何とかなると思うな。」

認知症になってもひょうひょうと仕事を続ける蛭子さんとそれを支える奥さんとマネージャーのお話でした。

今月も、コロナ感染対応のため、縮小版にさせていただきました。

特養　みんなの日曜日
たいめいけんハヤシライス

デイ 節分レク

特養
節分行事食

特養　節分レク

デイ　お手玉カルタ